

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	◎	百貨店（サービス担当）	・緊急事態宣言が解除の見込みであるため、購買意欲が大きく上向き、売上の増加が期待できる。また、新ショップの導入や地階の食料品フロアのリニューアル改装により、新しい商材も展開されることで、より安定した売上の確保が期待できる。
	◎	百貨店（外商担当）	・緊急事態宣言下であるが、週末の近隣商業施設の人出は明らかに増えている。緊急事態宣言が解除となれば、当店の人出も一気に回復すると予想される。
	◎	一般レストラン（経営者）	・このまま緊急事態宣言が出なければ、来客数は伸びる。ゴールドステッカーも取得し、酒類が提供できるため、新型コロナウイルスの感染対策に気を付けて営業していきたい。
	◎	都市型ホテル（フロント）	・緊急事態宣言の解除で、一気にレジャーの需要が増えると予想される。スポーツなどの団体客による問合せも増えている。
	◎	競輪場（職員）	・年末年始の時期となり、通常であれば良くなってくるが、新型コロナウイルスの感染状況や政局、物価の上昇による影響もあり、正直なところ分からない。
	○	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除に合わせて、休業していた飲食店からの注文が再開している。
	○	一般小売店〔花〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除により、取引先が営業再開となるため、現状よりも景気は回復すると予想されるが、コロナ禍以前の水準には戻らない。
	○	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・緊急事態宣言もようやく解除されることになり、制限はあるものの、経済活動が上向き期待は大きい。見積りなどの依頼も増えてきている。
	○	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・9月末で緊急事態宣言が解除されることが決定し、これから行楽シーズンに入るため、外出の機会が増える。服飾品店としては、これから景気が回復に向かうと予想される。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・10月1日からは緊急事態宣言も解除され、若干期待できそうである。
	○	一般小売店〔呉服〕（店員）	・客の心理としては、新型コロナウイルスへの恐怖感はまだあるが、ワクチンの接種により、少し動き回ってもよいという気持ちが出てきている。来客数が戻りつつあり、買物も少し楽しんでもらえるようになっている。
	○	百貨店（売場主任）	・9月の大型連休の人出からすると、緊急事態宣言の解除で一気に人の動きが活発化するため、来客数の増加による売上の拡大が見込まれる。
	○	百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの感染者数も落ち着いてくれば、本格的な景気回復が期待できる。
	○	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、やや良くなるものの、感染が再拡大した場合は、景気は悪化傾向に向かう可能性が高い。
	○	百貨店（商品担当）	・与党の総裁選や衆議院選挙によって景気が刺激され、ある程度の回復が見込まれる。また、緊急事態宣言の解除や、ワクチン接種の進展も追い風となり、1年半続いた経済の停滞は、活性化の方向に変化すると予想される。ただし、足元の企業業績は大変厳しく、冬のボーナス支給は低調となる見込みのため、一気に復活する期待は薄い。
	○	百貨店（販促担当）	・コロナ禍によって外出の自粛が続き、消費マインドも低下しているが、年度末には気分を一新し、開放感を求める傾向が強まると予想される。基本的には自宅が中心となり、食品の購入に加えて、ワイン用グラスの新調など、ちょっとしたぜいたく志向の高まりも期待される。年始に向けた動きもあり、提案次第では買換え需要も期待できる。
○	百貨店（外商担当）	・11月末までには、ワクチンが希望者に完全に行き渡る予定であるほか、治療薬も年内に完成する可能性があるため、今よりも新型コロナウイルスの感染は落ち着き、消費マインドも上昇すると予想される。	
○	百貨店（マネージャー）	・全体的には緊急事態宣言の解除で人流が増え、リベンジ消費が各分野で出てくるが、業界によって回復のスピードは異なると予想される。今後は、新たな価値観での購買意欲に対応したビジネスモデルが、大きなチャンスを生みそうである。	

○	百貨店（店長）	・11月以降の経済活動の再開により、人流が増えることから、商品もようやく動く予想される。旅行や宴会など、年末年始に向けての消費の増加には、かなり期待している。
○	百貨店（売場マネージャー）	・ワクチン接種が進むほか、一時的にでもペントアップ需要が見込まれると予想している。
○	百貨店（売場マネージャー）	・ワクチン接種率の上昇のほか、9月20日頃から新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向となったことで、来客数は増加している。また、緊急事態宣言も9月30日で解除となり、当分は人流が増加することから、売上の増加が期待できる。
○	百貨店（服飾品担当）	・ワクチン接種率の上昇に伴い、来客数は増えており、客の消費マインドも上昇が続くと予想される。ただし、新型コロナウイルス発生前の動きに戻るの半分は、残りの半分は、新しい生活様式をそのまま続けると考えられる。リアルな売場の役割がショールーム化するとも予測され、今後は買物体験の価値をいかに提供できるかが問われる。
○	百貨店（営業推進担当）	・4月以来の行動制限の緩和により、外出関連のマインドの向上が加速する。
○	百貨店（マネージャー）	・単純に新型コロナウイルスの感染状況次第となる。現在の予測では、10～11月は感染が落ち着き、12月に感染第6波の大きな波がくるという見方が多い。それに伴い、12月にはまた今月のような状況に戻ると予想されるが、社会全体でのウイルスへの慣れもあり、10～11月は直近よりも人の動きは活発となる。さらに、政局の安定で株価の上昇も予想されることから、当面は若干ながら景気の回復が期待される。
○	百貨店（マネージャー）	・緊急事態宣言の解除や、ワクチンの2回接種者の増加による行動制限の緩和などで、人流が戻ってくるため、経済活動が再び活発化すると予想している。
○	スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後は、飲食店を中心に、確実に消費は上向く。
○	スーパー（店長）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むなか、今後は政府の経済活性化策も出てくる。消費者はこれまで動きを抑制してきたが、旅行や行楽、イベントなどで一気に外出機会が増え、消費の拡大につながる。
○	スーパー（経理担当）	・緊急事態宣言が解除され、外食や旅行需要は高まるが、内食需要に大きな変化はないと予想される。対外的な活動が活発になることで、これまで抑えられてきた消費意欲が高まり、消費全体が上向く効果が出ると予想される。
○	コンビニ（経営者）	・9月末に緊急事態宣言が終了する予定で、ワクチン接種率も70%に達する予定である。テレワークも少なくなり、現状よりもビジネス街の人流も25%ほど増えるため、販売の増加につながる。
○	コンビニ（経営者）	・10月からは、飲食店での酒類提供が復活することを期待している。
○	コンビニ（店員）	・近隣の会社でのリモートワークなどが少なくなれば、少し来客数が増える。
○	コンビニ（店員）	・観光客や外出する人が増えることで、また以前のような集客に少しずつ戻る気がする。周りの飲食店も再開し始めれば、地域の活気も出てくるため、ついで買いの増加などにも期待したい。
○	衣料品専門店（経営者）	・緊急事態宣言の解除による景気回復を期待したい。
○	衣料品専門店（販売担当）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進むことで、徐々に景気も回復する。
○	家電量販店（店員）	・緊急事態宣言の解除による影響で、客足が少し戻るのではないかと期待している。
○	家電量販店（企画担当）	・政府からは、2回のワクチン接種者を中心とした行動制限の緩和の方針が示されており、秋物商材を含め、年末に向けての需要が増えそうである。
○	その他専門店〔食品〕（経営者）	・年末に向けて規制が緩和されれば、状況は良くなる。
○	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・緊急事態宣言の解除で、外出の機会が増える。今までのストレスから、商品の購入につながることを期待している。
○	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・緊急事態宣言の解除により、徐々に回復傾向が進むと予想される。ただし、生活必需品については大幅な改善が見込めない。

○	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経理担当)	・今月末で緊急事態宣言が解除され、行動制限も緩和された場合は、現在よりもやや良くなると予想される。
○	その他小売 [インターネット通販] (経営者)	・緊急事態宣言の解除によって、客の行動制限が緩和、消費の増加につながる。
○	その他小売 [インターネット通販] (オペレーター)	・制服などを一新する客が増えてきているため、売上は増加する。
○	その他小売 [インターネット通販] (企画担当)	・新型コロナウイルスの感染第6波への懸念はあるものの、ワクチン接種済み人口の増加で、重症化リスクが軽減されつつあるなど、ウイルスと共存可能な環境が次第に整ってくる。
○	高級レストラン (スタッフ)	・緊急事態宣言が解除となり、客足や客単価が徐々に戻ることを期待している。
○	高級レストラン (企画)	・ワクチン接種の進行や、地域の観光支援事業、Go To キャンペーンの再開により、利用者数の増加が見込まれる。
○	一般レストラン (経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数がまた増える恐れはあるが、飲食店が若干でも動き出すと、少しずつ景気が回復し、経済が動く大きな要因になることは間違いない。
○	一般レストラン (店員)	・緊急事態宣言が解除されれば、外食する人が増える。アルコールが提供できれば、もっと良い方向に向かう。
○	一般レストラン (企画)	・緊急事態宣言の解除により、営業時間が延長し、アルコールの販売も解禁されることで、現状よりも改善すると予想される。また、ワクチン接種の推進などによる経済活動の活性化にも期待している。
○	観光型ホテル (経営者)	・10月1日からは、レストランや宴会場では午後8時半までのアルコール提供が可能となるため、来客数の増加につながると期待している。
○	観光型ホテル (客室担当)	・ワクチン接種率が上がっているため、先行きは少し良くなる。
○	観光型旅館 (経営者)	・12月の予約の動きは、今月よりも良い。
○	都市型ホテル (スタッフ)	・緊急事態宣言中は会議が中心の予約となり、宴会はほぼゼロである。宴会は先の予約が入っているものの、自粛となる可能性は大きい。一方、宿泊は緊急事態宣言が延長となるたびにキャンセルとなっていたが、新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなるにつれて取り戻している。レストランは、緊急事態宣言中は平日のディナーを休止しているが、10月以降は徐々にスローペースであるものの、予約が入ってきている。
○	都市型ホテル (管理担当)	・緊急事態宣言が解除となれば、人の移動も活発化してくる。
○	都市型ホテル (販売促進担当)	・緊急事態宣言の解除で、どこまで上向くのかは分からないが、良くなることは間違いない。大阪では独自の施策が実施されそうであるが、まん延防止等重点措置の適用時よりも、人の動きは良くなると予想される。4月から休業していたレストランも、ディナー営業を再開する予定である。
○	都市型ホテル (総務担当)	・ワクチン接種が進んでいるほか、新型コロナウイルスの感染に対する治療方法も多様化している。
○	都市型ホテル (管理担当)	・緊急事態宣言の解除が発表され、客室については先の予約にも動きが出てきている。宴会でも様子見が続いていた仮予約が決定となっているほか、ビールの提供も可能となるため、レストランにも希望が持てる。
○	都市型ホテル (客室担当)	・緊急事態宣言の延長が続くという状況からは好転する。新型コロナウイルスの感染予防策を講じながら、秋の観光シーズンでの来客数の回復を期待している。
○	旅行代理店 (店長)	・新型コロナウイルスの感染第6波が到来すれば分からないが、それまでは緊急事態宣言の解除により、やや良くなると予想される。
○	旅行代理店 (役員)	・県民割のほか、Go To Travel キャンペーンの再開も予想される。
○	旅行代理店 (支店長)	・10月1日により早く緊急事態宣言が解除され、政府からの支援策も具体的に展開されると期待している。客も、Go To Travel キャンペーンのような支援策が具体的に出れば、旅行に行きたいという人も多く、在宅疲れを発散するような動きにつながる事が予想される。

○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、人出が増えている。特に、土日や連休は旅行者も増えているため、今後に期待している。
○	タクシー運転手	・今後上向くことが期待される。
○	タクシー運転手	・10月1日からの緊急事態宣言の解除により、帰宅時でのタクシーの利用が増えることで、少し景気は良くなる見通しである。
○	通信会社（経営者）	・緊急事態宣言の解除が期待される。
○	通信会社（社員）	・ワクチン接種率も上昇しており、今までの混とんとした状況での、ネットサービスの需要増加という傾向が変わりつつある。社会情勢の改善に伴い、申込件数が増加することを期待している。
○	通信会社（企画担当）	・ワクチンの接種や治療薬の開発、緊急事態宣言の解除により、景気が回復するタイミングを迎える。
○	観光名所（経理担当）	・希望者へのワクチン接種が完了に近づいていることで、様々な点で制限緩和の動きが広がっている。一方、緊急事態宣言の回数が増えるたびに、それを守る人が減ってきている。ワクチン接種が終われば大丈夫という考えの人もいるため、たとえ緊急事態宣言が再び発出されても、人流が今よりも減ることはないと思える。
○	ゴルフ場（支配人）	・9月末で緊急事態宣言が解除されれば、来場者数もますます増えると予想される。
○	その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・ワクチン接種率の上昇が安心感につながるほか、経済対策による支援も期待できる。
○	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・緊急事態宣言の解除による、経済の活発化に期待している。
○	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・10月からは緊急事態宣言が解除となるほか、ワクチン接種も進むため、外出意欲の向上が期待できる。
○	美容室（店員）	・緊急事態宣言の解除が見込まれるため、結婚式のゲストによる予約が入ってきている。また、自宅待機を続けていた高齢の客による、問合せや予約も入りつつある。
○	その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・今が底だと感じる。ワクチン接種が進むことで、景気は今よりも回復すると予想される。
○	住宅販売会社（経営者）	・緊急事態宣言の解除に伴い、徐々に日常の動きが戻ってくると予想される。
○	住宅販売会社（総務担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、通常の生活に戻ることが期待される。それによる販売量の増加も予想している。
○	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に関する報道が増え、客の心理が良い方向に変化することで、当社からの訪問者への制約もなくなり、予定が組みやすくなることを期待したい。
□	商店街（代表者）	・緊急事態宣言が解除されても、高齢者は外出を控えており、大きな変化はないと予想される。
□	一般小売店〔時計〕（経営者）	・9月末をもって緊急事態宣言が全面解除されるが、これで一気に緩みが出ると、新型コロナウイルスの感染第6波につながりかねない。今までの経験をもとに考えると、同じことの繰り返しになる。一方、個々の客と話をしていると、なかなかお金や気持ちの面でゆとりがなく、年配になるほど動きがない。
□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・今月で緊急事態宣言が解除されるが、その後の対応がどうなるかわからない。物の価格がかなり上がっているため、今は物が売れる状況ではない。
□	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・気候が良くなり、緊急事態宣言が解除されても、年末近くに新型コロナウイルスの感染が再び拡大することを考えれば、この先も不安である。
□	百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染第5波は落ち着きが見られるものの、新型コロナウイルス変異株の感染拡大や、第6波の発生の可能性もあり、予断が許されない状況にある。仮に感染が落ち着いたとしても、特にファッション関連は商品の製造を抑えており、従来の商品に代わるヒットアイテムもないため、以前の売上に戻ることは難しい状況にある。

<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・現時点では、来客数に比例して売上も少し回復しているが、消費者の動きが以前とは変化したように感じる。コロナ禍前の状態には、完全には戻らないと予想している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（販売推進担当）	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生するとの予想がある。3回目のワクチン接種や経口薬の実用化、指定感染症の分類引下げなどが行われるまでは、警戒心から来客数が劇的に回復することはない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（特選品担当）	・9月末で緊急事態宣言が解除されるが、今後はワクチン接種も進み、良い方向に進んでほしい。ただし、新型コロナウイルス変異株の猛威や、感染第6波への懸念もあり、全く先が見えない状況である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（宣伝担当）	・緊急事態宣言が延長となり、入店数や売上の不振が長期化したことで、取引先が生産調整や販売のオンラインへの移行、販売要員の減少などに動いている。客の生活様式も今の状態が定着しており、緊急事態宣言が解除になったとしても、急激な回復は見込めない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経営者）	・年末に向けて、前年のように新型コロナウイルスの新規感染者数が急増しなければ、来客数の増加は続くと予想される。企業の決算をみる限り、業績の回復が進んでおり、冬のボーナス支給額も増加が予想されるため、クリスマスや歳末商戦に期待したい。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・先行きの状況は変わらないか、やや悪くなる。緊急事態宣言が解除されて外食が増えれば、スーパーなどでの需要が減ると予想される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・ワクチン接種による、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少は光明であるが、治療薬の利用が認可されるまでは予断が許されない。人の移動が活発化すれば、消費の回復が期待できるものの、これまでの企業業績の傷は大きいので、大きな期待はできない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・今後天候が回復すれば、野菜の価格が下がり、客も増えてくる。ただし、また台風の影響が出れば、価格は高いままとなり、販売も伸びなくなる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（開発担当）	・まだ緊急事態宣言は解除されていないが、10月からは各部門で値上げが行われる。賃金も上がっておらず、景気が良くなる状況にはならない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言はもう発出されないとしたいが、企業が在宅勤務にメリットを感じ、新たな勤務形態が定着した感もあるため、来客数は戻らないと予想される。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの感染は、取まると思えば、また増えるという動きを繰り返しているため、ワクチンや治療薬が確立される数年後までは、良い方向に向かうとは思えない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・今後寒くなり、新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加すれば、人出は減少する。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	・先行き不透明な状況は、しばらく続くと予想される。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・10月からは緊急事態宣言が解除され、全国的に人流が戻ることを期待しているが、年末にかけて新型コロナウイルスの感染の波が発生するとの予想がある。また、インフルエンザの流行への不安もあり、余り期待できない。全体としては、今以上にワクチンの接種が広がって人流が増えてくれば、景気の底上げにつながる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（営業・販売担当）	・緊急事態宣言下で、来客数が少ない。コロナ禍がもう少し収束し、外出や買物客が増えることを期待している。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（経営者）	・コロナ禍が完全に落ち着く気配はなく、消費が喚起されるほど回復しないと予想される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・緊急事態宣言が解除になるため、かすかな期待はあるものの、今までの経験もあって楽観はしていない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・ワクチン接種の拡大や、外出の自粛もあって、新型コロナウイルスの新規感染者数は減っているが、まだ経済活動が全面的に再開できるとはいえない。今後もしばらくは感染状況が良くなったり、悪くなったりで不安定な状況が続き、経済活動や景気も振り回されることになる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [宝石] （経営者）	・今後も株価の変動によって、消費意欲に影響が出る。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [宝飾品] （販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、緊急事態宣言も解除されれば、それなりに人出は増えると予想されるが、すぐには消費の増加につながらない。

□	その他飲食〔自動販売機(飲料)〕(管理担当)	・気候が良くなれば、人の動きも増えるものの、全体的な回復はコロナ禍が収束するまでは見込めない。
□	観光型ホテル(経営者)	・今後の新型コロナウイルスの感染状況次第である。余りにも悪い状態が続いているため、1日も早い収束を祈っている。
□	タクシー運転手	・夜間の人流は減少傾向のまま推移している。客の乗車機会の減少傾向は今後も続き、回復が見込めない。
□	通信会社(社員)	・緊急事態宣言の解除により、一時的には回復するものの、そもそも業況の悪化が新型コロナウイルスだけが原因かどうかは疑問である。
□	テーマパーク(職員)	・緊急事態宣言の解除後に、秋の観光シーズンが本格化するが、本場に観光や娯楽を楽しむ雰囲気醸成されるのかが、大いに疑問である。ワクチンが行き渡った後、社会がどのような状況に変わっているか、まだ予測が付かない。
□	観光名所(企画担当)	・緊急事態宣言が解除となる見込みで、新型コロナウイルスの感染者数も減少している。飲食業や旅行業界への支援があれば良くなるが、現状ではまだ先が見通せない。
□	遊園地(経営者)	・緊急事態宣言が今月末で解除となり、経済活動が早期に活発になることを願いつつも、新型コロナウイルスの感染がこのまま落ち着くとは思えず、明るい見通しを持つまでには至らない。
□	競艇場(職員)	・緊急事態宣言の発出による、外出の自粛やステイホームの影響で、電話投票やインターネット投票の売上好調が続いている。しばらくは現状維持で推移しそうであるが、コロナ禍の状況により、どう変化するかは読みにくい状況である。
□	その他レジャー施設〔球場〕(経理担当)	・大阪府ではまだ緊急事態宣言が解除されておらず、プロ野球の公式戦での入場制限はあるが、地元チームの活躍によって活気のある試合が続いている。また、11月にはコンサートも3日間予定されているが、3か月後の状況は不透明であるため、全体としては現状と変わらないと予想している。
□	住宅販売会社(経営者)	・まだしばらくは、住宅資材などの値上げが続くと予想される。
□	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕(経営者)	・不動産価格は下がると予想されるが、今のところは価格の下落にまでは至っていない。
□	その他住宅〔展示場〕(従業員)	・全体の来客数ではなく、各社の来場予約数を重視するなど、今までの住宅展示場の概念を覆す形に変わってきた。今後はイベントができずに集客が増えなくても、展示場への来場予約数はある程度確保できる見込みのため、各社の契約件数への影響は少ない。
□	その他住宅〔情報誌〕(編集者)	・経済環境には様々な側面があるが、株価を含む資産バブルの要素を背景に、富裕層が安定資産を求める動きが増え、それが景気を支えている面が大きい。
▲	スーパー(店長)	・緊急事態宣言の解除後も、生活防衛的な買物が続くと予想される。
▲	スーパー(企画担当)	・緊急事態宣言が解除となり、今までの外食の自粛モードも緩和されるため、家庭内での調理や食事に関するスーパーの売上にも影響が出る。旅行などの外出規制も緩和されるため、年末商材への影響も懸念される。
▲	スーパー(企画担当)	・来客数が減るなど、コロナ禍による巣籠り需要が前年よりも減少し始めている。特に、自転車の販売が前年比で50%と悪化している。
▲	スーパー(販売促進担当)	・景況感に大きな変化はないと予想されるが、緊急事態宣言が解除される場合、従来の外食から中食、内食へのシフトの反動が出てくる。新型コロナウイルス発生前の水準に戻ることはないが、外食が回復する一方、中食、内食は減少すると予想される。
▲	スーパー(社員)	・輸入品を中心に畜産部門の価格が高騰しており、買上数量が減っている。水産部門も価格が上昇傾向にあるため、当面は食品全体で売上の確保が難しくなりそうである。
▲	コンビニ(経営者)	・経営が悪化した状況で、新たな雇用はなかなか生まれない。そのなかで、最低賃金の上昇や、働く人に対する有給休暇などの優遇などが求められている。今は経営者側が雇用したいとは思えない状況であると感じる。

	▲	コンビニ（店員）	・年金生活をしている高齢の客が多く、余り景気に左右されない傾向はあるが、秋からの一部商品の値上がりを気にする様子が見受けられる。
	▲	家電量販店（店員）	・冬のボーナス支給額が確定するまでは、購買意欲の回復は難しい。与党の総裁選の結果も、景気回復の動きを左右しそうである。先行きが不透明な状態では、成約に結び付けるのも困難である。
	▲	家電量販店（店員）	・商品のモデルチェンジにより、単価が全般的に高騰しているように感じる。経年劣化による買換え需要はあるが、以前よりも買い控えが増えたと感じている。同業他社を含め、最近は余り変化を感じなかったが、近隣のリサイクルショップは平日、土日に関係なく、幅広い年齢層の家族連れが増えたように感じている。今後は、購買先の分散化が更に進みそうである。
	▲	家電量販店（人事担当）	・前年に増えた巣籠り需要の反動減が、当分は続く予想されるため、前年を上回るような売上を確保するのは難しい。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・コロナ禍による所得の減少が、徐々に影響してくると予想される。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・半導体の供給不足による生産の遅れで、新車が入ってこない。納車待ちの客からはキャンセルも発生しているため、売上は落ち込む。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	・冬に向けて、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くかどうか不安である。景気回復は、冬が過ぎてからではないかと予想される。
	▲	住関連専門店（店長）	・衆議院選挙などによる政局の変化や、世の中に落ち着きがない時期は、いつも売上が悪化する。
	▲	その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・10月から各種消費財の値上げも始まるため、景気は一時的に冷え込むと予想される。飲食や旅行関連の復活も、しばらくは不透明な状況である。
	▲	美容室（店長）	・緊急事態宣言が解除されるが、客の心理はまだまだ冷え込んでおり、すぐに予約が増えるとは思えない。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・冬場になり、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてくれば、来客数はかなり減ってくる。既に小売店での買物客はかなり減っており、今後どうなるのかが非常に不安である。
	×	一般小売店〔花〕（店長）	・コロナ禍はまだまだ落ち着かない。
	×	一般小売店〔花〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響でイベントがなくなり、開催されても縮小傾向となるため、生花にまで予算を掛けられなくなっている。また、10月からは様々な商品の値上げがあるため、花の購買意欲が下がるほか、かねてからの節約意識もあり、売上は減少する。
	×	コンビニ（店長）	・最低賃金の改定により、企業側は今以上に厳選して採用するようになっている。
	×	衣料品専門店（経営者）	・衆議院の総選挙や、地方選挙の影響を受ける。特にリモート選挙となる影響で、外出着の需要が減退すると予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・お金がないほか、客も来ないといった理由から、商品を仕入れなくなっている。客も商品を購入しないことに慣れているため、今後良くなる見込みがない。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足の影響で、販売在庫のない状況が深刻化している。年内の販売台数に関しては、大きな増加は望めない。
	×	住関連専門店（店員）	・良くなる要素が全くない。
企業 動向 関連	◎	木材木製品製造業（経営者）	・輸入相手国がロックダウンの状態にあり、前月と今月は入荷がなく、売上も在庫を売った分にとどまる。ロックダウンは10月末まで続く予定のため、今後も厳しい状態が続く。
(近畿)	◎	金属製品製造業（開発担当）	・受注が増えそうである。
	○	食料品製造業（営業担当）	・全国的にも緊急事態宣言が解除となるため、飲食店への人の流れが少しずつ多くなり、飲料水の売上も少し増えると予想される。
	○	繊維工業（団体職員）	・全国的に緊急事態宣言が解除されることで、商品の動きが出てくると予想される。

○	窯業・土石製品製造業 (管理担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、緊急事態宣言も9月30日で解除される見通しである。ワクチン接種も進んでおり、経済を回していかなければならないため、期待も込めてやや良くなると予想している。
○	電気機械器具製造業 (宣伝担当)	・10月から緊急事態宣言が全面解除されるため、それが継続すれば、今よりも消費は多少活発になると予想される。
○	電気機械器具製造業 (営業担当)	・ワクチンの接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってきているため、緊急事態宣言が解除となれば、受注の増加が期待される。
○	建設業 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、緊急事態宣言が解除され、徐々に景気が上向くことを期待している。また、関西では16年ぶりの地元プロ野球チームの優勝効果にも期待している。
○	輸送業 (商品管理担当)	・緊急事態宣言が解除され、酒の販売量が増加するため、今後数か月は売上が伸びる。
○	金融業 (副支店長)	・ワクチンの接種率も上がってきており、個人消費の改善が予想される。
○	金融業 [投資運用業] (代表)	・あくまでも新型コロナウイルスの感染者数次第となるが、緊急事態宣言も解除される見込みであり、今まで我慢していた購買意欲の活発化が予想される。ただし、コロナ禍で打撃を受けた店舗などは、回復までにまだ時間が掛かる。
○	広告代理店 (営業担当)	・年末に向けて、出稿の動きは前年よりも回復の兆しがある。
○	その他サービス業 [店舗開発] (従業員)	・10月以降は、緊急事態宣言の解除に始まり、年明けにはワクチンだけではなく、経口薬などの治療薬も出てくる可能性も高まったことから、購買意欲が徐々に活発になってくると予想される。
□	食料品製造業 (従業員)	・緊急事態宣言は解除されるようだが、まん延防止等重点措置に変わっても、すぐに大きく変わることはない。また、製品の値上げもできないなか、原材料、資材の値上げは増えているため、経営の大きな負担となる。
□	繊維工業 (総務担当)	・回復に向けては、新型コロナウイルスの新たな感染拡大が起こらなければという条件が付く。ワクチン接種の効果に期待しており、何とか感染が再拡大しないことを願っている。
□	パルプ・紙・紙加工品製造業 (経営者)	・取引先からは、増産の情報は聞かれない。
□	出版・印刷・同関連産業 (企画営業担当)	・ワクチン接種が進み、景気も徐々に上向くと予想されるが、コスト削減の動きも強く、回復には時間を要する。
□	化学工業 (経営者)	・日々の受注の平均額は、横ばいから若干減少しているが、緊急事態宣言が解除されれば上向くのではないかと期待している。
□	プラスチック製品製造業 (経営者)	・9月末に緊急事態宣言が解除されれば、営業活動が進めやすくなるが、実際の数字に反映されるのはその先となる。
□	一般機械器具製造業 (経営者)	・取引先の投資計画は止まったままで、今後もこの状況は変わらないと予想される。
□	一般機械器具製造業 (設計担当)	・飲食、旅行業界の規制解除による回復に期待できそうであるが、まだまだ国内全体の景気回復には時間が掛かりそうな見通しである。
□	電気機械器具製造業 (経営者)	・前年よりも景気は回復しているが、ここへきて横ばいの動きとなりつつある。
□	電気機械器具製造業 (営業担当)	・大型案件がなく、良くなる材料が見当たらない。
□	建設業 (経営者)	・緊急事態宣言は解除の見込みであるが、コロナ禍の収束がみえてこなければ、今の状況は変わらないと感じる。
□	建設業 (経営者)	・株価の推移と実体経済がかい離していると感じる。体力のある企業は設備投資を粛々と進めているが、コロナ禍の影響を受けている企業は、設備投資計画の凍結や延長を行っている。
□	輸送業 (営業担当)	・個人間での売買や、通販による荷物が前年比で2倍以上に増えたが、単価が安過ぎるため、利益の増加にはつながっていない。
□	通信業 (管理担当)	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続く。
□	金融業 (営業担当)	・まだまだコロナ禍の収束はみえてこない。
□	広告代理店 (営業担当)	・今年に入って、2年前の売上を下回る状態が続いている。

	□	司法書士	・緊急事態宣言が解除されるが、これから冬に向かうほか、解除による新型コロナウイルスの新規感染者数のリバウンドもあるため、全体としては変わらない。
	□	経営コンサルタント	・今月末で緊張事態宣言が解除される見込みであるが、多くの事業者、土地所有者は、また新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返されると予想しており、資金の回らない状況が続く。
	□	その他サービス [自動車修理] (経営者)	・まだまだ新型コロナウイルスの影響が続くと予想される。
	□	その他非製造業 [商社] (営業担当)	・コロナ禍の収束時期はみえず、設備投資の予算がどれだけ計上されるのかも不透明である。
	▲	繊維工業 (総務担当)	・問屋による集客や催事の回数が増えていない。2月までの催事は参加が決まっているが、販売量は予測不能となっている。経費は掛かるが、売上が読めない状況である。
	▲	化学工業 (企画担当)	・食品の原料価格の高騰が収まる気配はなく、販売価格への転嫁が追い付かない。
	▲	化学工業 (管理担当)	・半導体や部品の不足により、自動車や家電関連の減産が予想される。
	▲	金属製品製造業 (経営者)	・コロナ禍による部品の入荷遅れがしばらく続く。
	▲	輸送業 (営業担当)	・木材の不足や、海外でのロックダウンが終わらなければ、商品が入ってこないため、配達件数が減少する。
	▲	その他非製造業 [機械器具卸] (経営者)	・先の話がなく、手持ちの案件を処理している状態のため、今後良くなるとは思えない。
	×	金属製品製造業 (営業担当)	・原材料である鋼材価格が大幅に値上がりしているが、大手自動車メーカーへの10月以降の販売価格との差は大きい。その分の値上げを認めてもらえないため、採算はより一層悪化しそうである。
	×	不動産業 (営業担当)	・10月からは緊急事態宣言が解除となったが、景気の回復は困難であり、当面は底ばいの状態が続く。
	×	経営コンサルタント	・ここ3か月で良くなる要素はほとんどない。何とかやりくりしながら、現状を維持するのが精一杯である。コロナ禍の収束後に、どの業種にどのようなサービスが提供できるかをよく考え、準備を行うことが、今できる最も大事なことである。同業他社も同じ状況で、生き延びるために必死に努力している。
	×	その他非製造業 [電気業] (営業担当)	・新型コロナウイルス感染収束後の経済状況が見通せない。
雇用 関連 (近畿)	◎	人材派遣会社 (支店長)	・中国の大手不動産会社の経営危機によるショックが大きくならなければ、下半期も堅調に推移すると予想される。
	○	人材派遣会社 (役員)	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が全面解除になることから、大いに期待している。
	○	人材派遣会社 (営業担当)	・ワクチン接種が進んでおり、採用を増やす企業も増えている。
	○	人材派遣会社 (営業担当)	・10月から緊急事態宣言が解除されるが、ワクチン接種証明書の発行などに期待したい。
	○	新聞社 [求人広告] (管理担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数は急激に減少し、病床利用率にも改善がみられる。緊急事態宣言は多くの地域で9月30日には解除されそうである。ワクチンも年内にはほぼ希望者全員の接種が完了する見通しで、新型コロナウイルス変異株の感染も、ある程度は抑えられると予想される。
	○	職業安定所 (職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の激減により、宿泊業やサービス業、飲食業の景気の回復が予想される。
	○	民間職業紹介機関 (職員)	・緊急事態宣言の解除後は、集客を見込んだ飲食店などの改修工事が予想され、それに伴って求人数が増える可能性がある。
	□	人材派遣会社 (経営者)	・上半期からずれ込んでいた案件が、ここへきて動き出している。ただし、予定では8~9か月間の案件であったが、終了を年度末の来年3月に合わせているため、改善の動きがどこまで続くかは分からない。少なくとも、年度末までについては、今までよりもかなり忙しくなってくる。
	□	新聞社 [求人広告] (営業担当)	・10月から緊急事態宣言は解除されるものの、先行きが不透明な状況は変わらない。また、今後の与党の総裁選や衆議院選挙の結果により、政策面での変化があると予想されるが、それが良い変化かどうかは、現時点では判断できない。

□	職業安定所（職員）	・雇用保険受給資格決定件数は5か月連続で減少し、離職者数そのものは減ってきたとを感じるが、依然として雇用調整助成金の申請件数は2万件台で推移している。特に、最近は自動車部品メーカーからの相談が増えるなど、今後の推移が懸念される。
□	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染第5波は収束しつつあるが、まだ先の見通しが楽観できる状況ではない。当面の好材料としては、ワクチン接種の拡大や、抗体カクテル療法などの新たな治療法の普及もあるが、その一方、冬に向けての感染第6波への懸念もあり、今のところは明るい材料が見当たらない。
□	職業安定所（職員）	・8月の求職者の新規登録は、前年比で1割程度増えている。特に、パート登録者の増加が目立っている。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・今後3か月は、内定の辞退や就職活動に出遅れた求職者の動きが中心となるが、大学のキャリアセンターに進路の決定状況を聞くと、例年と大きく変わらないか、やや悪くなるとの予想である。オンライン授業の影響で動きの鈍い学生が増えているとみられ、全体的に活発ではない。ただし、求人と求職者のマッチング数を見る限り、人材業界の業況に大きな変化はない。
□	民間職業紹介機関（営業担当）	・まだ変化の兆しがみられない。
▲	アウトソーシング企業（社員）	・職場の欠員が解消されなければ、今の状況は変わらない。
▲	新聞社 [求人広告]（担当者）	・緊急事態宣言の解除の有無や、コロナ禍による経済への影響次第であるが、まだまだ企業の宣伝に対する予算の動きが鈍く、前年割れの状況が続く見込みである。
▲	民間職業紹介機関（営業担当）	・コロナ禍による特需で求職者が職を得ているため、求職者数が減ってきており、求人数も微減となっている。
×	学校 [大学]（就職担当）	・コロナ禍の影響で、企業の業績も不安定である。特に、観光業や飲食業、宿泊業などの業況の落ち込みによる影響が予想される。